

80 エゾノキヌヤナギの時期別生育量及び窒素吸収量

福島県蚕業試験場栽桑部・平成12年度蚕業試験場年報

- 1 部門名 蚕糸－栽桑－生理・生態、整枝・剪定 分類コード 09－01－04080000
2 担当者 堤 和敏・土井則夫
3 要旨

エゾノキヌヤナギはクヌギ等 비해天蚕飼料樹として多くの利点がある。しかしその栽培技術が確立していないため、まず、天蚕の年2回飼育(山付け時期:4月下旬及び8月下旬)を想定した栽培上の特性を調査した。

(1)発芽前伐採した株の生育は、3月下旬に発芽し、生育量(重量)は8月下旬までほぼ直線的に増加しその後は鈍くなる。条、側枝、葉の割合は6月下旬では56:9:35、10月上旬では59:10:31であり、条に比べ葉の割合がかなり少ない。10a当たり葉量は6月下旬では約800Kgとなり、10月下旬では下位葉の落葉も見られるが約1,400Kgとなる。

(2)天蚕の2回目の飼育には1回目の飼育に使われた後の再発枝を利用することが有利であるが、6月下旬に全伐したその後の再発枝葉量は10月下旬には10a当たり約180Kgとなり、1回目の約1/5程度である。

(3)時期別伐採した葉量と再発枝の葉量の年間合計量は、生育期間の前半に伐採した場合は収量の減収が大きく、特に5月下旬伐採の場合は途中で伐採しない時に比べ約1/2に減収する。

(4)再発枝も含めた地上部の窒素吸収量は年間乾物生産量と同様の傾向があり、8月下旬伐採の場合が最も多く、最も少ないのは5月下旬伐採の場合である。10a当たりの窒素吸収量は、8月下旬伐採の場合約25Kg、5月下旬伐採の場合約14Kgである。

(5)株の肥大率は無伐採では年間216%に肥大したが、5月下旬伐採では135%の肥大にとどまり、生育途中での枝条の全伐は樹勢にも大きく影響し、次年度の収量にも影響を及ぼすものと推察される。